

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
入間市	金子地区(木蓮寺、南峯、寺竹、西三ツ木、上谷ヶ貫、下谷ヶ貫、花ノ木、中神、根岸)	令和3年2月26日	令和 年 月 日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	409.7ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	225.6ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	70.8ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	47.0ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	17.0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	35.0ha
(備考)	

注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

金子地区の農地は特産狭山茶の広大な茶畑を有しているほか、露地野菜栽培が行われている。近年のリーフ茶離れ、高齢化、後継者不足により、茶栽培農家は大きく減少しており、狭山茶の特徴である生産、製造、販売までの一貫した経営形態をとる経営体も減少している。現在では主に法人経営体により農地中間管理事業等を利用した茶園管理が行われているが、農地の出し手は多く存在している。また、茶は永年性作物であり、集約化が進めにくい側面がある。

露地野菜については、規模の比較的大きな農家では、後継者のいる経営体は存在するが、経営体数は少数である。

なお、中心経営体が引き受ける意向のある面積よりも、70歳以上で後継者未定または不明の農業者の面積の方が多く、新たな農地の受け手の確保が必要である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

茶においては中心経営体の中でも規模拡大の意向のある経営体を中心に集積を図る。集積、集約にあたっては、出し手の規模等の情報を収集し、担い手の生産性、効率性を考慮した農地情報の提供に努める。

露地野菜については、中心経営体のほか新規就農者や担い手への農地の情報提供を行い、維持向上を図る。

いずれも生産から販路、あるいは転換作物の研究等を含め、農地の維持、拡大につながる支援策を関係機関が課題を共有しながら、集積、集約化に向け地域が一体となって推進していく。